

「夏の大三角」「冬の大三角」は、その季節に観望しやすい一等星を結んだ星野並びで、都会地でも見つけやすいことから、小学校理科の教科書にも載っています。しかしそれらとは別に、「さんかく座」というものもあります。全天に 88 ある正式な星座の一つで、大きさは約 132 平方度しかなく、88 星座中 78 位の小さな星座です。それでも 3 等星と 4 等星がつくる「二等辺三角形」はよく目立ち、私の好きな星座の一つです。星座絵には「三角定規」が描かれています。

さんかく座には、恒星とは別にすばらしい天体が存在します。渦巻き銀河「M33 (メシエ 33)」です。銀河系外の銀河は、太陽系から見て、さまざまな角度に存在します。真横から見た銀河もあれば、斜めから見た銀河もあります。M33 は太陽系から見てほぼ真上から見た位置にあるので、渦巻きが完璧に見えるのです。

M33 の写真を見ると「虚空の深宇宙に浮かぶ銀河」という印象を受けます。天体写真としては撮影がやや難しい対象なのですが、新型の天体写真儀「Seestar」では、わずか 8 分の露光で、ここまで鮮明にとらえています。

(2024 年 2 月上旬)

